

報道関係各位

2014年12月5日

株式会社 目黒雅叙園
特定非営利活動法人 京都文化協会

目黒雅叙園 百段階段(東京都指定有形文化財)において 「ダウン症の天才書家 金澤翔子×百段階段 ～共に生きる～」 展覧会の開催のお知らせ

本展は、ダウン症として生を受けた娘と母との軌跡を、「共に生きる」をテーマに、母・金澤泰子氏の当時の日記を元にした“ことば”と娘・翔子氏の“書”40作品を4つの章に分けて構成した展覧会です。本年11月21日より12月28日の期間、目黒雅叙園内の東京都指定有形文化財「百段階段」を舞台に開催いたしております。金澤翔子氏の書が生み出した‘奇跡’と‘勇気’を、どうぞご覧ください。



【展覧会概要】

企画名：「ダウン症の天才書家 金澤翔子×百段階段 ～共に生きる～」

開催日：2014年11月21日(金)～12月28日(日) ※会期中無休

ご本人の来場は 12/14(日) 12/21(日) 12/28(日)

開催時間：10:00～18:00 (17:30 最終入館)

会場：東京都指定有形文化財「百段階段」

入場料：当日 1,200 円／学生 600 円(要学生証呈示) ※小学生以下無料

主催：目黒雅叙園／特定非営利活動法人京都文化協会

●展覧会紹介ページ <https://www.megurogajoen.co.jp/event/kanazawashouko/>

【本件に関するお問い合わせ先／取材申し込み】

京都文化協会 広報担当 鈴木 TEL 080-4027-9684 / FAX 075-354-8198

E-mail suzuki@kyo-bunka.or.jp

会場の様子①



会場の様子②



■ダウン症の天才書家 金澤翔子×百段階段 ～共に生きる～

ダウン症として生を受けた娘に絶望し、何度も心中を考えた母、突然の夫の死、社会からの拒絶・・・見えない壁を乗り越えながら、娘は幼い子どもや知的障害者に、書を教えるまでに成長した。たった一つの希望を探し続けた親子の軌跡をたどる展覧会。

母・泰子さんの綴る文章と翔子さんの書によって ふたりのあゆみは紡がれます。泰子さんの語られる数々のエピソード。テキストや当時の写真を交えた、選りすぐりの書 ふたりの成長とともに会場の空気はうつろいます。

四年続いた苦悩、絶望の淵から見えたもの、学校との闘い、書の才能の発見、個展の開催と飛翔。

人は生きるとことの素晴らしさ、希望を体感するでしょう。

また、同じ障害に悩む人の大きな励みになる事を願います。



■金澤翔子 プロフィール

1985 年東京都目黒区に生まれる。5 歳で、母の師事で書を始める。2005 年銀座書廊で個展。2009 年鎌倉建長寺、京都建仁寺で個展開催(以後毎年開催)。2011 年奈良東大寺で個展開催。福島に「金澤翔子美術館」開設。2012 年の NHK 大河ドラマ「平清盛」揮毫。熊野大社で奉納の揮毫。2013 年銀座に「銀座 金澤翔子美術館」を開設。平泉中尊寺で個展。厳島神社で奉納の揮毫。東京国体の開会式で揮毫。天皇の御製を揮毫。

■目黒雅叙園 百段階段

2009 年 3 月に東京都指定有形文化財に指定された木造建築。ケヤキの板材でつくられた 99 段の階段廊下をもつことから、通称「百段階段」と呼ばれています。かつて食事を楽しみ、晴れやかな宴が行われた絢爛豪華な 7 部屋が連なります。各部屋には、樹齢数約 280 年を超える床柱他、鏘木清方や橋本静水など当時屈指の著名な作家たちによって描かれた、約 160 枚に及ぶ日本画の設えなど、昭和初期における美の共演と大工の高い技術力をみることができます。



別紙1 会場風景



第2室 漁樵の間



第3室 草丘の間



第7室 頂上の間



作品「希望」 第3室 草丘の間



作品「十歳の般若心経」 第3室 草丘の間



作品「二十歳の般若心経」 第3室 草丘の間



作品「楽」「笑」 第4室 静水の間



鑑賞の様子 第1室 十畝の間

別紙2 ご来場者の声

- ・どこから来るのかというカ強さと柔らかさ、勇気と悲しみの両方を感じました。
- ・書かれた字から感情が伝わってくる。信じられないほど気持ちがこもっている。一体どのように書き方を指導したのか、どのように文字の意味を教えたのか、お母様に聞いてみたいと思った。
- ・お母様のメッセージに感動した。
- ・本当にお母様の愛情がすごいと思った。
- ・親子の絆のカ強さに言葉がなくなってしまいました。
- ・健常者にはない、翔子ちゃんの感性の奥深さに印象を受けました。バランスが天性のもの。文字の絶妙な並び方。ここまで書けるようになるには、血と涙の歳月であったことでしょう。そこまで愛情を注いだお母さんが本当に偉大だと思った。
- ・彼女の人生をどのように百段階段の7部屋に展示したのか楽しみに来ましたが、華麗な部屋と作品がお互いを引き立て合っていてびっくりしました。また、お母さんの言葉はすべての育児に共通することなので、とても共感しました。
- ・「涙」という字を見ていると本当に涙が出てくる
「楽」という字は本当に楽しく踊っているように見える。
- ・どんなところにも可能性があり、誰に対しても何に対しても希望を見なくてはならないということを学びました。医療の仕事をしているのですが、生まれたばかりの赤子をとりあげる時も、患者さんと関わる時も接し方が変わると思います。
- ・グループホームに勤めているのですが、金澤翔子さんの存在はみんなの力にもなると思いました。